

公益財団法人 山口育英奨学会

事業報告

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその実績

(単位:千円)

事業別	予算額	決算額	実施割合
育英奨学事業	78,351	59,195	75.55%
学術研究等助成事業	26,405	23,475	88.90%
資料館庭園運営管理事業	31,263	30,013	96.00%

(2) 直前3事業年度の財産および状況

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (当該事業年度)
経常収益	156,452	161,669	161,844
評価損益等調整前 当期経常増減額	20,087	△604	27,598
当期経常増減額	△456,712	△570,896	542,270
正味財産期末残高	4,339,962	3,680,963	4,318,135

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
①育英奨学事業	学生に対し奨学金の無利子貸与 奨学生集会を開催し学生の指導育成と相互交流
②学術研究等助成事業	大学等における学術の研究者に対して助成金を給付 自然環境保護活動を実施する団体に対しての助成金給付 当会の事業目的に合致する公益事業活動をする団体への助成
③資料館庭園運営管理事業	郷土資料館の運営および一般公開 庭園・山林・遊歩道の整備と自然環境保全活動

(4) 従たる事務所の状況

名 称	所在地	事業内容
東京事務所	東京都 品川区大崎	首都圏の大学等への当会事業の周知 公益事業活動の助成対象団体の情報収集 金融情報収集

(5) 重要な契約に関する事項

契約年月日 (契約期間)	相手方	契約金額	契約の概要
平成 31 年 4 月 1 日 (5 年間)	EY 税理士法人	1 年間 1,320,000 円	定期提出書類の作成支援および 会計等に関する相談業務

(6) 職員に関する事項

職名等	氏 名	就職年月日	担当事務
事務局長	原 久晴	昭和 61. 4. 7	事務局総轄
事業部長	荒井 能弘	平成 22. 9. 1	本部事務・会計・資料館管理
一般事務	中沢 高則	令和 2. 11. 1	奨学金・研究助成金・庭園管理
一般事務	渡部 夕子	平成 2. 4. 1	資料館管理
一般事務	山口 広美	平成 13. 2. 20	建物内管理・事務所庶務

(7) 役員会等に関する事項

① 理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和 2. 6. 9	平成元年度事業報告・計算書類等承認について	可決
〃	第 9 回定時評議員会招集および提出議案について	可決
〃	令和 2 年度新規採用奨学生選考について	可決
〃	令和 2 年度学術研究助成について	可決
〃	令和 2 年度自然環境保護活動助成について	可決
〃	事務局長の任免について	可決
〃	常務理事の選任について	可決
〃	理事長の職務執行状況の報告	了承
令和 3. 3. 24	令和 2 年度学術研究助成事業(その他助成)について	可決
〃	寄附(土地)の受け入れについて	可決
〃	「建物建設積立資金規程(観音堂)」の積立額変更について	可決
〃	令和 3 年度事業計画の承認について	可決
〃	令和 3 年度予算の承認について	可決
〃	「建物使用貸借契約書(東京事務所)」の締結について	可決
〃	「役員および評議員の報酬等ならびに費用に関する規程」の一部変更について	可決
〃	選考委員の選任について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承

② 評議員会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和 2. 6. 26	令和元年度事業報告の内容報告について	了承
〃	評議員選定委員会の評議員選任結果について	了承
〃	令和元年度の計算書類等の承認について	可決
〃	理事 1 名辞任に伴う 1 名選任について	可決

(8) 株式の保有状況

企業名	保有株式数	保有割合	企業との関係
ENEOS ホールディングス(株)	3,800,000 株	0.11%	取引なし
北越メタル(株)	55,600 株	1.39%	取引なし

2 役員等に関する事項

(1) 理 事

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
理事長	山口敬太郎	2 年	常 勤	規程による	
常務理事	原 久晴	2 年	〃	〃	事務局長
理 事	森地 茂	2 年	非常勤	〃	
〃	若杉 敬明	2 年	〃	〃	
〃	一色 誠一	2 年	〃	〃	
〃	田波 耕治	2 年	〃	〃	

(2) 監 事

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
監 事	高橋 實	2 年	非常勤	規程による	
〃	西尾 進路	2 年	〃	〃	

(3) 評議員

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
評議員	江中八洲彦	4 年	非常勤	規程による	
〃	古瀬 裕	4 年	〃	〃	
〃	福壽 道夫	4 年	〃	〃	
〃	大田 勝幸	4 年	〃	〃	
〃	山崎 正	4 年	〃	〃	
〃	高橋 讓	4 年	〃	〃	
〃	青柳 隆広	4 年	〃	〃	

(4) 役員等の報酬

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	7名	19,893 千円	
監 事	2	144	
評議員	8	133	
合 計	17	20,172	

(千円未満切捨て)

事業報告の附属明細書

I 事業に関する記載事項

1 育英奨学事業について

(1) 奨学金貸与者数および貸与額

区 分	継 続 奨学生	新採用 奨学生	貸与者 合計(名)	奨学金貸与額 (千円)	奨学金返還免除額 (千円)
大学院生	3	5	8	4,550	800
大学生	69	24	93	55,550	11,850
短大生	1	1	2	1,200	250
高専生	0	1	1	600	150
留学生	11	5	16	7,000	1,400
合 計	84	36	120	68,900	14,450

(2) 奨学金返還者数および返還額

区 分	貸与奨学金返還者 (名)	返還額 (千円)
大学院生	34	5,864
大学生	160	42,464
短大生	0	0
高専生	3	345
高校生	6	479
留学生	35	7,272
合 計	238	56,424

(3) 奨学生集会

8月26日～27日(1泊2日)に開催する予定で案内したが、コロナ禍が収まらなかったため開催を断念した。

なお奨学生には集会参加に伴う奨学金返還免除の特典を確保するために作文の提出を求め、集会参加の意思表示をして作文を提出した者には2か月分、集会欠席の意思表示をして作文を提出した者には1か月分の返還免除を行った。これにより2か月分返還免除対象者は74名、1か月分返還免除対象者は28名であった。

さらには自宅学習を行うことによる奨学生援助を目的として、在籍奨学生全員に1万円分の「図書カード」を配布した。対象者は115名であった。

(4) その他

機関誌「山びこ」53号を刊行し、奨学生および元奨学生に配布した。

2 学術研究等助成事業について

(1) 学術研究助成

指定校から推薦された次の研究に対して、各800,000円を上限とし、総額15,100,000円の助成金を交付した。

- ① 東京大学 医科学研究所 癌・細胞増殖部門腫瘍抑制分野 助教 江口 貴大
研究題目 神経筋シナプスの形成・維持を制御する新規因子の機能解析
- ② 東京大学 大気海洋研究所 助教 矢萩 拓也
研究題目 汽水・沿岸域に生息する絶滅危惧動物（貝類）の保全生態学的研究
- ③ 東京工業大学 科学技術創生研究院 化学生命科学研究所 准教授 北口 哲也
研究題目 健康診断・食品分析・環境調査に活用できる自在型マルチカラーセンサーの創出
- ④ 新潟大学 工学部 准教授 大木 基史
研究題目 高硬度・高じん性 WC-Ni 系複合皮膜の特性発現メカニズム解明および応用展開
- ⑤ 新潟大学 工学部 教授 山内 健
研究題目 廃棄紙パックから抽出したナノセルロースを活用した耳管開放症治療薬の開発
- ⑥ 群馬大学 大学院理工学府 分子科学部門 准教授 村岡 貴子
研究題目 シラノン錯体を利用したシランからのシリコーンの選択的合成法の開拓
- ⑦ 長岡工業高等専門学校 准教授 赤澤 真一
研究題目 ミミズを用いたバイオ医薬品生産への挑戦

- ⑧ 長岡工業高等専門学校 准教授 奥村 寿子
研究題目 材料への表面コーティング利用を目的とする天然ポリフェノール化合物の物理化学的性質の改良と評価
- ⑨ 秋田大学 大学院理工学研究科 講師 後藤 育壮
研究題目 電線接続用純アルミニウム製部品の電気伝導性・機械的性質・鋳造性の両立を通じた送変電網の高性能化への貢献
- ⑩ 東北大学 大学院環境科学研究科 准教授 轟 直人
研究題目 水電解酸素発生触媒の高活性化に向けた積層欠陥の機能探索
- ⑪ 東北大学 大学院工学研究科 応用物理学専攻 助教 吉留 崇
研究題目 革新的4次元イメージング法：生体分子構造変化の高解像度解析への挑戦
- ⑫ 富山大学 学術研究部工学系 准教授 中路 正
研究題目 高分子素材への花粉の吸脱着メカニズムの解明および高吸着または吸着防止性能を有する高分子材料開発
- ⑬ 新潟大学 医歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任助教 植木 雄志
研究題目 炎症性サイトカイン IL-6 による PLOD2 転写制御を介した頭頸部扁平上皮癌浸潤・転移制御機構の解析：新規浸潤・転移抑制治療の構築を目指して
- ⑭ 信州大学 工学部 教授 錦織 広昌
研究題目 高吸着機能を有する多孔質光触媒を用いたマイクロプラスチックの完全分解
- ⑮ 長岡技術科学大学 准教授 佐々木 徹
研究題目 10kHz 級高繰り返し高強度レーザープロセスでのプロセスの再現性の向上
- ⑯ 長岡技術科学大学 准教授 山本 麻希
研究題目 日本海のレジームシフトがオオミズナギドリの食性に与える影響
- ⑰ 山形大学 理学部理学科 准教授 富樫 貴成
研究題目 材料科学－数学異分野融合による多元ナノ粒子超格子の連続的構造転移と協奏的機能発現

- ⑱ 東京大学 生産技術研究所 特任助教 村松 充
研究題目 動的な形態を用いた身体運動に追従するウェアラブルシステムのデザイン手法の研究
- ⑲ 新潟県立十日町高等学校 生物部
研究題目 シナイモツゴとモツゴの判別に活用できる核 DNA マーカーの開発
- ⑳ 新潟明訓高等学校
研究題目 高校生と実施する幻の希少種「サドサンショウウオ」の調査活動
- (2) 自然環境保護活動助成
自然環境保護活動に取り組む団体に対して、各 500,000 円を上限とし、総額 4,968,000 円の助成金を交付した。
- ① チーム・おぐに
活動名 八石山登山道保全活動
- ② NPO 法人 新潟県山野草をたずねる会・植生研究会
活動名 いのちの森づくりー里山自然復元植樹
- ③ 特定非営利活動法人 新潟水辺の会
活動名 青少年が人力で浮島を走らせ、鳥屋野潟の環境資源を発掘する活動
(略称：がってん丸プロジェクト)
- ④ 特定非営利活動法人 新潟の科学・自然探偵団
活動名 私の学校にもサイエンス・サーカスがやってきた
(中山間地の小規模校や離島の子ども達、及び障がい者や高齢者を対象とした出前型環境教育・科学技術理解促進活動)
- ⑤ 認定：特定非営利活動法人 溪流再生フォーラム
活動名 溪流魚産卵床復活と遊歩道造成に伴う溪畔林構築
- ⑥ あじさい塾
活動名 里山再生事業

- ⑦ 愛宕山ユキツバキ保存会
活動名 愛宕山のユキツバキ群生地を整備育成

 - ⑧ 上栗集落活性化委員会
活動名 ブナ林管理道路の保全と清水の復活プロジェクト

 - ⑨ 新潟河川生態研究グループ
活動名 加茂湖に接続する汽水性小規模池沼の水生生物相調査と環境保全の提言

 - ⑩ 生物多様性保全ネットワーク新潟
活動名 「特定外来生物」ウチダザリガニの分布調査と防除対策の研究

 - ⑪ 森林インストラクターと市民有志
活動名 市民有志による、瞑想の池救出作戦

 - ⑫ 長岡市立小国小学校
活動名 僕らの町を守りたい～おぐに防災プロジェクト～
- (3) その他助成
学術研究等助成事業の「その他助成」として総額 2,250,000 円を交付した。
- ① 公益社団法人日本女子プロ将棋協会
 - ② 公益財団法人日本ユースリーダー協会
 - ③ チームおぐに
- (4) 自然環境保護活動報告会の開催
10 月に「自然環境保護活動報告会」を開催し、令和元年度に助成金を交付した 10 団体のうち 6 団体が参加して、活動の成果について報告を行った。
- (5) 学術研究助成報告会の開催
10 月に「学術研究助成報告会」を開催し、令和元年度に助成金を交付した研究者 20 名のうち参加を依頼した 3 名が、研究の経過や成果について報告を行った。

3 資料館庭園運営管理事業について

- (1) 当会の資料館および庭園・山林を4月中旬から11月下旬まで一般公開し見学者を受け入れている。ガイド2名を交替で配置し案内や解説を行って見学者の便に供している。見学者は年間656名であった。
- (2) 当会所有の庭園および山林の遊歩道を散策しながら、野鳥、植物、きのこなどを観察する会を2回開催した。長岡野鳥の会、長岡きのこ同好会の協力を得て実施した。合計32名の参加者があった。
- (3) 駐車場脇に「東屋」を建て、資料館・庭園の見学者や来訪者が休息できる場所を提供した。
- (4) 市道から事務所・庭園への進入路および駐車場に融雪設備として「消雪パイプ」を敷設した。除雪作業を効率化して、冬季の訪問者の便宜を図った。